

ハイデルベルク信仰問答より

問 108 第七戒で、私たちに、どのようなことを教えていますか。

答え それは、あらゆる不貞が、神によって罪とされており、ゆえに、私たちは心からそれを嫌い、貞節で戒めに従った生活をし、聖なる結婚生活においても、独身生活においても、そのように生きなければならない、ということであります。

〔別訳〕

答え すべてみだらなことは神に呪われるということ。それゆえ、わたしたちはそれを心から憎み、神聖な結婚生活においてもそれ以外の場合においても、純潔で慎み深く生きるべきである、ということです。

第七戒 あなたは姦淫してはいけない。(出 20:14)

第七戒では「姦淫してはいけない」という教えがシンプルに呈示されていますが、読者にはその適用範囲を広く考えることが求められています。十戒の内容一つひとつには神の御旨の大枠が記されていて、神の民はそれが自分の生き方にどのように適用すべきかを深く考える必要があります。本問答書では「あらゆる不貞」「すべてみだらなこと」と言われており、単に既婚者が犯す不貞のみを指すものではないことが前提とされています。つまり、結婚という枠組みを超えたところで行なわれるあらゆる性的関係を神は憎まれると言っているのです。本メッセージではその理由を突き詰めて考えてみたいと思いますが、それには結婚の本義を探るとともに、実際に不品行がもたらしている人間社会の混乱にも目を向ける必要があるでしょう。

聖書の冒頭に立ち返ってみると、エデンの園における最初の結婚の記事を見つけることができます。アダムはヒトとして完全な存在として造られたのですが、完全の中に一点の不完全性を神は意図的に残されました。それは、彼が一人では生きられない存在であるということ、他の動植物とでは心の交流ができないということです(創世 2:18-20)。エデンの園での生活にアダムは何の不満も持ってはいなかったはずですが、神は敢えて彼の心に一つの欲求を持たせ、配偶者の必要を自覚させました。

人はあらゆる家畜、空の鳥、あらゆる野の獣に名を付けた。しかし、自分にふさわしい助け手は見つけることができなかった。(創世 2:20)

その上で、彼の一部(あばら骨)から「女」を造り、彼の許へ連れて行かれたのです。そのときにアダムが発した歓喜のことは「これこそ、私の骨の骨、肉の肉。これを女と名付けよう。これは男から取られたからである」は、人類最初の賛美であるとさえ言われます。事実、そこまでの記事の中にアダムの言葉は一文字も記されていないのですが、人間が初めて発言した内容が配偶者を与えてくださった神への感謝と喜びだったのです。聖書の真理に照らして見ると、結婚とは神の能動性の下で人と人が出会うものであり、両者の肉体的な結びつきは心の交流と一体性を表し、両者の中に同じひとりの神がおられ

るところに基づく精神的一致、究極的には礼拝そのものとさえ言えるでしょう。当初、結婚における法制度というものは存在しませんでした。ここでも神の御旨を大枠で捉えるならば、何者も両者の間に入り込むべきではないと言うことができます。それは、第三者の介入によって、二人の心の統合、一心同体性が壊されるからです。このことは周囲の人間社会を見れば明らかであり、悲しいことに既婚者が配偶者以外の異性と交流することによって家庭が崩壊する多くの実例が存在します。聖書の中でも、一夫多妻がもたらす弊害は明白であり、ダビデ王家では常に王子たちの間で王位を巡る争いが絶えませんでした。族長ヤコブの家庭においても、二人の妻と二人の側女を持ったことによる混乱と、異母兄弟の間における敵意があったことが分かります。

では、既婚者ではない者同士の性的な関係についてはどう理解すべきでしょうか。結婚が神の目的の下で二人が出会い結ばれるものであるならば、その「将来的な関係」をも誰も壊してはならないということになります。聖書が結婚以前の性的な関係をも禁じている根本的な理由はそこにあるでしょう。朝岡氏も指摘されているように「この戒めは、それぞれの時代の中でその適用される範囲が狭められたり、広げられたりしてきたもの」(p. 314) がありますが、主イエスのことばを読むならば、聖書の根本思想が確認できます。

悪い思い、殺人、姦淫、淫行、盗み、偽証、冒瀆は、心から出て来るからである。(マタイ 15:19)

ここでは「姦淫」(μοιχεία) と「淫行」(πορνεία) が使い分けられており、いずれも神の法に合わないものであることが分かります。後者は「不法なる性的関係」を意味し、結婚という正規の法的関係の外で行なわれるものすべてが含まれています。

最後に、社会の現状とキリスト者の生活について述べて終わります。私たちの生きる世界は、性の乱れを助長するもので満ちており、ポルノが蔓延し、性は商売の道具と化し、そこにお金を費やす者もあり、人の心は異様な世界に依存し、本来の性の祝福を歪め、多くの人々が傷つき、社会に歪みをもたらしています。見えないところでは人身売買が横行しており、行方不明となった多くの児童が性犯罪に巻き込まれているという調査報告もあり、そのための島が設けられ、各国の政治家がそこに招待されているという実態もあるようです。

このような世界を神はどのように見ておられるのか。キリスト者の使命とは、神の根本的な御旨を見失うことなく、それを世界に宣べ伝え、自分自身も罪から離れて生きることでしょう。そして、身近で起きる諸問題に目を瞑ることなく、一つひとつの問題の解決を求め、壊れた関係の回復に努めることも含まれていると思います。